

第1回 高校生SDGs選手権大会 ポスター発表 説明資料

学校名	福岡県立八幡南高等学校
チーム名 (メンバー名)	「多文化共生」 (西田 奈菜子、中山 あみゆ、志賀 叶梨、清水 杏奈、武田 采奈)
作品タイトル	「日本人と外国人が快適に過ごすためには多言語表記をどのように変えるべきか」
関係する SDGs のゴール	10「人や国の不平等をなくそう」 11「住み続けられるまちづくりを」
説明文	<p>課題設定の理由は、来日外国人が日本語を分からずに困っている場面をよく目にし、外国人が便利と思える標識は何なのかということに興味を持ち、さらに時代によって変化する標識の起源について疑問を抱いたからです。</p> <p>私たちは、情報収集のために、北九州市役所産業経済局観光課への訪問、インターネットでの検索、本校のALTのザック先生へのインタビューを行いました。</p> <p>調査の結果として、北九州市の在日外国人は増加していること、外国の方に多言語表記の看板の需要があるということ、QRコードを用いたデジタル化した標識、SNS、口コミを活用しているところがあるということが分かりました。</p> <p>私たちは解決策として標識や看板のデジタル化を進めるということを考えました。デジタル化の利点を導入する側、使用する側、環境面の3つの視点で挙げると、まず導入する側は人件費等のコストの削減ができる、表記の変更が簡単である、在庫不足を気にかける必要がなくなる、情報を使用者側が引き出せるため手間が省けるなどの利点があります。また、使用する側はスマートフォンだけでたくさんの情報を持ち歩くことができる、動画や音声により理解しやすくなる、言語の数が限られないという利点があります。さらに、環境面でも、印刷物を減らすことで資源を大切にすることができる、日本の美観を大きく変える心配がないという利点があります。</p>
課題、 今後の展開など	今後標識をデジタル化することが外国人と日本人が平等に、快適に、日本で暮らすための第一歩になると考えました。そして、私たちにできることとしては、デジタル化した看板の使い方を分かりやすくするために、イラストを用いたマークを考え、看板に提示してもらうように提案することがあると考えます。このことにより、より多くの外国人の方々に利用してもらえんと思います。まずは自分たちから行動し、看板のデジタル化の普及につなげたいです。
参考文献等	<p>情報発信で大切なことは多言語とデジタル配信.MC Catalog+</p> <p>(https://www.mccatalog.jp/news/column/20160330_124/)</p> <p>自治体のための多言語化対応ハンドブック自治体職員様向けお役立ち情報</p> <p>(https://www.nec-nexs.com/supple/autonomy/oyakudachi/tagengoka/)</p>

(説明文は1ページ以内)